

【2】見守りネットワークの構築

地域見守りネットワークの構築を目指して (大野市)

基礎情報

実施地域	大野市下庄地区
実施主体	下庄地区各種団体連絡協議会
所在地	大野市中野町3丁目1-16
代表者	会長 河合英雄



活動を始めたきっかけ

本市の高齢化率が30パーセントに迫るとともに、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯などが増加していることから、日常生活に何らかの不安を抱える人々が孤立しないよう、区長、民生委員、福祉委員等の関係者が連携した見守り体制の構築に向け、まず地域住民の見守りに対する意識の高揚を目指して取り組みを始めた。

見守り活動の担い手

○下庄地区社会福祉協議会 ○下庄地区区長会 ○下庄をよくする会
○下庄地区体育協会 ○下庄長寿会 ○下庄地区ふわわ女性の会
○下庄地区子ども会育成会連絡協議会
○下庄倶楽部 ○下庄地区遺族会 ○下庄白百合会

見守り対象者

- ・一人暮らし高齢者
- ・高齢者のみ世帯
- ・障害者等

活動概要

- ・啓発チラシの作成
平成23年度は、地域での支え合い体制づくりに向けて、地区内の理解を深めるために、見守りに関する啓発チラシを500部作成し、団体連絡協議会を構成する10団体に配布し、各種団体の会議の席上でチラシを配布してもらい、見守りの必要性に対する理解を深めた。
- ・見守り体制における先進地視察研修の実施
平成24年度は、各種団体連絡協議会の構成団体である下庄地区社会福祉協議会が、連携した見守り体制の構築に向け、市内の各町内会毎に地域福祉委員会の設置に取り組んでいる石川県能美市を視察した。平成25年度も下庄地区社会福祉協議会で、富山市の新保地区社会福祉協議会を視察し、アンケートによる地域福祉ニーズの把握とその活用等について研修を行った。
- ・給食ボランティア意見交換会の実施
下庄地区社会福祉協議会の主催により、一人暮らし高齢者等に配食サービスに関わっている調理ボランティアや民生委員、福祉委員、同地区社協理事などが一堂に会し、配食サービスや高齢者等の見守り体制などについて意見交換を行った。
- ・地域ぐるみ雪下ろし協力の推進
冬期間、一人暮らし高齢者や障害者、高齢者世帯等で身近に援助できる者がいないなどの理由で、降雪による屋根雪下ろしが困難な場合における地域ぐるみでの雪下ろし協力を、各種団体連絡協議会の構成団体である区長会が中心となり推進した。
- ・まごころそばサービス事業の実施
各種団体連絡協議会の構成団体である下庄をよくする会が主催、下庄地区社会福祉協議会が共催し、地区内の70歳以上の一人暮らし、二人暮らし高齢者を対象に、希望者に手打ちそばの宅配サービスと声かけを行った。

見守りが必要な人の把握方法

地域の区長や民生委員、福祉委員などが情報を持ち寄り、見守りが必要な人を把握している。

活動の成果・異変発見事例

先進地視察研修を実施したことなどにより、地区内の見守りに対する意識に変化が現れており、給食ボランティア意見交換会の場では、「現在行っている地区単位の配食サービスを発展させ、より小さいコミュニティ単位で食事や交流、見守りが出来るような組織づくりをしていく時期に来ているのではないか」といった意見が出るなど、今後の見守り体制の方向性を導くような意見が出てきている。

工夫した点

各種団体連絡協議会の構成団体であり、また同じように地区の各種団体で構成し福祉活動を実践している下庄地区社会福祉協議会が中心となり、見守り活動に関する視察研修や意見交換会を実施することにより、様々な立場の人に見守り活動への意識を高めてもらうこととしている。

事業の財源

平成23年度は、地域支え合い体制づくり事業補助金及び各種団体の会費
平成24年度以降は、各種団体の会費
(地区社協の事業は、市社協からの助成金)

課題

地区レベルでは、下庄地区社会福祉協議会などを中心に、様々な見守り活動を実施しているが、今後いかにコミュニティごとに組織として見守り体制を構築していけるかが課題である。

今後の目標

地区レベルでの見守り活動を継続しながら、より小さいコミュニティ単位での見守り活動に移行していけるよう、各種団体を通じて地区住民への理解を深めていきたい。

